

#BEATBUDDY

日本語マニュアル

BeatBuddy をお買い求め頂き、ありがとうございます。

このマニュアルでは、BeatBuddy の機能や操作方法をご紹介します。

BeatBuddy で出来ること

BeatBuddy は、足元で操作できる世界初のペダル型ドラムマシンです。

ペダル操作で、フィル、リズムチェンジ、ヒット、タップテンポ、一時停止…など、必要な操作が全て行えます。それはまるで、最もスムーズに意思疎通が図れるドラマーが、傍らにしているような感覚です。

BeatBuddy のフォーマット

BeatBuddy のビートは、MIDI ファイルを演奏します。MIDI ファイルとは楽譜のようなデータで、機械中のミュージシャンに何を演奏するかを指示します。また、BeatBuddy のドラムサウンドは、実際のドラムをサンプリングした WAV（音声）ファイルです。MIDI ファイルがトリガーとなり、WAV ファイルのドラムセットを演奏します。これが、BeatBuddy があらゆるテンポや拍子に対応し、どんなドラムセットの音色でも演奏できる仕組みなのです。GM（General MIDI）ドラムマップに対応しているため、独自のリズムパターンをプログラムすることもできます。

ただし、ドラム音色とリズムパターンの組み合わせには注意が必要です。ヘビーメタル用のドラムでジャズのビートを鳴らす…合わないでしょうね。もしかしたらカッコイイかもしれません。色々試してみてください！

コンテンツ構成

BeatBuddy で再生される曲は、メロディーやサビなどの「パート」で構成されている「ソング（曲）」と呼ばれます。各「ソング」の「パート」にはそれぞれのリズムパターンがあり、そこにアクセントとなる「アクセントヒット」や、複数のパターンの「フィル」が追加される訳です。

「ソング」を再生した際、リストで並べられた「パート」順に移動し、最後の「パート」が終了すると再び最初の「パート」に戻ります。

複数の「ソング」や「ドラムセット」、「セッティング」を全て組み合わせたものが「プロジェクト」です。「プロジェクト」はSDカードに保存されています。SDカード1枚につき、プロジェクトが1つ保存できます。



※ 編集ソフト「BeatBuddy Manager」の編集画面です。

BeatBuddy スタイル

一般的なドラムマシンはリズムパターンを打ち込むことができますが、BeatBuddy はパフォーマンス・ツールですから、本体でリズムパターンを打ち込むことはできません。しかし、DAW ソフトウェア（Guitar Pro、Cubase、ProTools、GarageBand、EZ Drummer …等）でリズムパターンを作り、編集ソフト「BeatBuddy Manager」（無料ダウンロード）を経由して BeatBuddy 本体に転送する事ができます。

接続した楽器のサウンドは変わりません。

BeatBuddy はエフェクターではありません。ですから、接続した楽器の音色を変えることはないのです。BeatBuddy の入力端子は、ギターとエフェクター、BeatBuddy を数珠つなぎにして、同じサウンドシステムで鳴らす時に便利のように用意されています。楽器を入力していなくても、スタンドアローンのドラムマシンとして動作します。

電源

付属の電源アダプター、または 9V / 300mA 以上 / センターマイナス仕様のエフェクター用電源アダプターで駆動できます。 **9V（電圧）以上の電源を接続した場合は破損し、保証の対象外となりますのでご注意ください。**

300mA 以下、またはセンタープラス仕様の電源を接続すると、起動しませんのでご注意ください。

エフェクター用電源ユニットを使用する場合

ペダルボード用の電源ユニットと接続する場合は、始めに 9V / センターマイナス仕様であるかを確認してください。電源ユニットによって供給できる電流容量（総アンペア値）が異なります。ですから、他の機器と組み合わせた場合、BeatBuddy を起動できる十分な電流（300mA 以上）が残されているか計算する必要があります。総アンペア値が、電源ユニットの電流容量を上回ると、BeatBuddy（または他のエフェクター）が正常に起動しません。

SD カード

全てのデータ（リズムパターンやドラムセット）は、SD カードに保存されています。動作するためには、本体に SD カードが正しく挿入されている必要があります。

SD カードにはデフォルトで 10 種類のドラムセットと、200 種類以上のリズムパターンが保存されています。SD カードをなくした場合、デフォルトのデータをダウンロードして、新しく買った SD カードに入れ直す事も可能です。

複数の「ソング」や「ドラムセット」、「セッティング」を全て組み合わせたものが「プロジェクト」です。SD カード 1 枚につき保存できるプロジェクトは 1 つだけです。

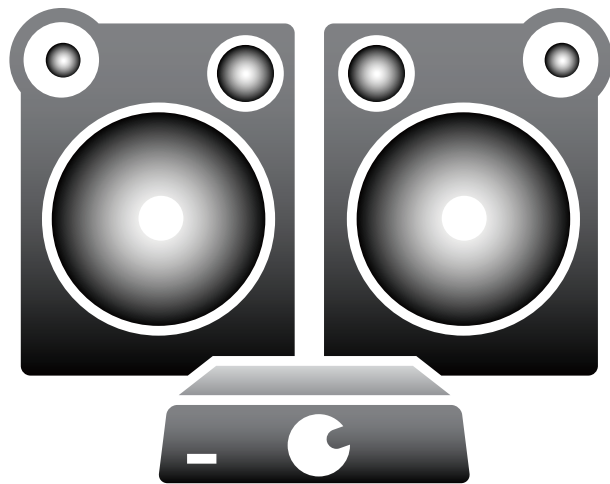
※ SD カードを抜く場合、必ず電源を落としてください。
誤って動作中に抜いてしまった場合は、まず電源を切り SD カード挿入後、数秒待ってから再び電源を入れて下さい。



サウンドシステム

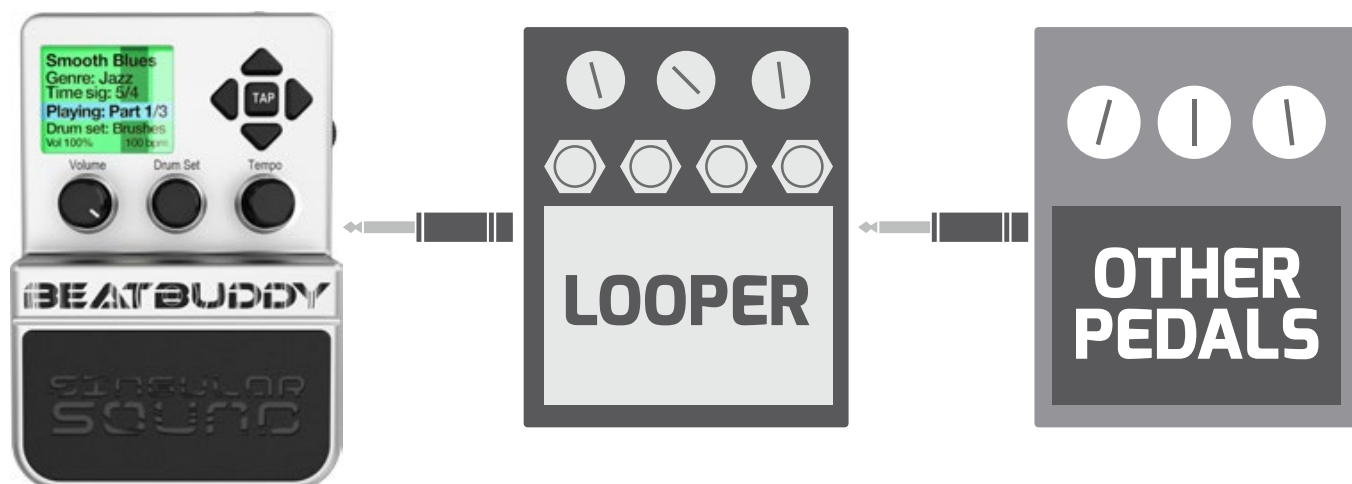
BeatBuddy の出力は「ラインレベル」です。これは音楽プレイヤーやコンピューターのヘッドフォン出力と同様のレベルです。モノラル 1/4" (6.5mm) 端子×2 とステレオ 1/8" (3.5mm) 端子×1 を搭載していますので、これらからサウンドシステムへ接続します。

「ステレオフルレンジ仕様」のオーディオ/モニター用スピーカー (PA システム) で再生すると、ベストサウンドが得られます。より自然なサウンドでプレイするには、ホームオーディオや PA システム (またはスタジオモニター)、アコースティック・ギター用アンプで再生することをお勧めします。BeatBuddy のステレオ 1/8" (3.5mm) 端子から、ホームステレオの Aux 入力に接続するのも有効な方法の 1 つです。



入力端子はギターやエフェクターと数珠つなぎにして、1つのサウンドシステムで再生するために用意しました。BeatBuddy は楽器を入力していなくても、スタンドアロンのドラムマシンとして使用できます。

多くのギター／ベース用アンプは高域を抑えたチューニングがされており、フルレンジ再生はできません。さらに歪みやすいため、BeatBuddyのサウンド・クオリティーが十二分に再生されない恐れがあります。再生しているシステムがフルレンジで、BeatBuddyに適しているか不安な場合は、BeatBuddyにモニター用ヘッドフォンを接続した音と比較してみてください。



BeatBuddyは通常の再生でサウンドシステムにダメージを与えることはありません。BeatBuddyを再生しながらギターをプレイする場合は、ギターとBeatBuddyを別々のシステムで再生しましょう。同アンプで再生すると、バスドラムがギターサウンドを揺らしてトレモロ効果を起こす原因になります。この症状は、アンプ側のEQの低域を上げると解決できます。また、アンプ中のビルトイン・エフェクターは、ギターだけで使った方が良い効果が得られます。ドラムサウンドには不向きです。

BeatBuddyの使用方法

1. 視覚メトロノーム：小節内のビートの表示
2. ソング名
3. ソングが保存されているフォルダー名
4. 拍子
5. プレイバックのステータス
6. 選択されているドラムセット
7. 音量とテンポ



- a. Volume : ソングの再生音量を調整します。 入力端子に接続された楽器の音量は変化しません。
- b. Drum Set : ドラムセット (音色) を変更します。
- c. Tempo : ビートのテンポ/スピードを変更します。 スピードはBPMで表示されます。 このノブは、メニュー画面での選択/決定にも使用します。

例 : フォルダー選択画面でフォルダーを選択してノブを押すと、ソングの選択画面に入ります。 ノブを回してソングを選び、押すことにより、ソングを決定できます。現在の画面から出る時は Drum Set のノブを押します。

※画面は 「ホーム画面」 → 「フォルダー選択画面」 → 「ソング選択画面」 の順に階層が変わります。

- d. アップ/ダウン矢印 : スクリーンのメニューを上下にスクロールします。
- e. レフト/ライト矢印 :
 - 右 : フォルダー/ソングを選択
 - 左 : 現フォルダーから 1 つ前のフォルダーに戻ります。
- f. Tap (タップ) : タップテンポのモードに入ります。 テンポに合わせてボタンを複数回タップすると、テンポが自動的に算出されます。テンポはBPMで表示されます。
- g. ヘッドフォンの音量 : ヘッドフォン端子から出力される音量を調整します。ヘッドフォンからは、ドラムと接続している楽器のサウンドと一緒に再生されます。



ソング再生中：

曲の一時停止／再生再開

ソングを再生していない時：

フォルダー内で次のソングへ移動



再生していない時に 1 度踏む：

ソングがスタートします。最初にイントロフィルを鳴らすのは、オプションで設定できます。

ソング再生中に 1 度踏む：

フィルが流れます。（設定に従い）踏む度にフィルのパターンが変化します。

ソング再生中の長押し／解除：

再生中のソングパートが終わり、次のソングパターン（Aメロ→Bメロ）が始まります。

ソング再生中に 2 度タップする：

ソングを終了します。オプションでアウトロフィルを鳴らす事もできます。

再生していない時に長押しする：

タップテンポ入力モードに切り替わります。

アクセント・ヒットを鳴らします。シンバルなど、好きな音色をソングのパートごとに割り当てられます。設定によっては、タップテンポ入力スイッチとしても使用できます。







その他のコマンド

- ・ 次のパートへの移動中やアウトロのフィルが流れている時に 1 度踏むと、パートの移動やソング終了はキャンセルされます。
- ・ 一時停止中に再び踏むと、フィルと共に再生が再開されます。
- ・ 一時停止中に長押しすると、そのままソングが終了します。フィルを入れずにソングを即終了したい場合に便利な機能です。

ディスプレイ

BeatBuddy はカラーコードで、現在のステータスやビートの位置を表示します。

カラーコード

	ビートが止まっている状態
	イントロ/アウトロ
	メインとなるソングパートのループ
	フィル
	曲間の移動
	一時停止

暗い色で表示されているバーが「ビートのインジケーター」で、ビートの位置を表示します。設定している拍子に沿って、このバーが移動していきます。

例えば 4/4 拍子の場合、インジケーターは 4 本のバーを順番に移動していきます。5/4 拍子なら 5 本のバーが順に表示されます。フィルの終わりやパート移動のタイミングは、その拍子の最後のタイミングに合わせて行われます。そのためインジケーターを見れば、パートが移動するタイミングが計れます。

ソングのデフォルト・テンポを設定する

テンポを設定した後、「Tempo」ノブを長押しすると、そのソングのデフォルト・テンポが設定できます。この設定は電源を切った後も保持されます。

※ 本体で設定したデフォルトのテンポは、編集ソフト「BeatBuddy Manager」には反映されません。また、「BeatBuddy Manager」内で、そのソング・テンポを変更した場合、「BeatBuddy Manager」の設定が優先されます。「BeatBuddy Manager」でテンポを変更しなかった場合、本体の設定が適用されます。

拡張フットスイッチ（オプション）

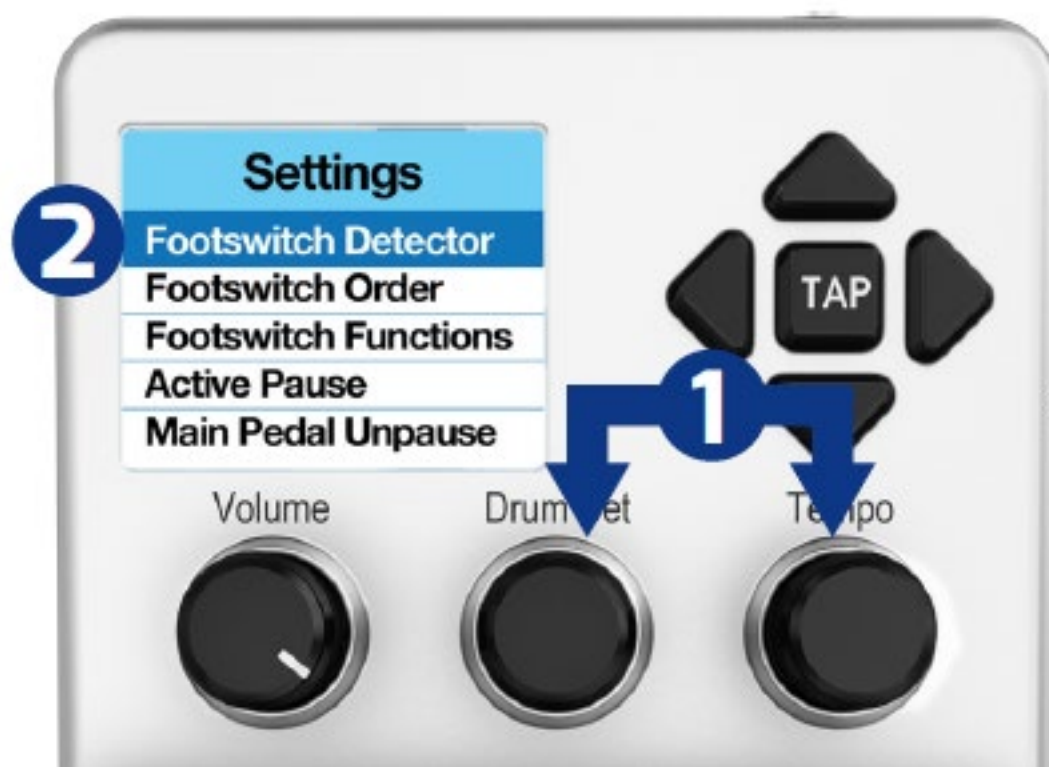
別売のフットスイッチを使用すると、パフォーマンス中の BeatBuddy 機能へのアクセスが格段に向上します。専用のフットスイッチの使用を推奨しますが、それ以外でもスタンダードなモメンタリー／ラッチ 両タイプのデュアル・フットスイッチにも対応します。1/4 インチ TRS /ステレオタイプ（左チャンネルがスイッチ 1、右チャンネルがスイッチ 2）のみが使用可能です。ABY スイッチには対応していません。



初めてフットスイッチを接続する場合には、設定が必要です。

1. BeatBuddy とフットスイッチを TRS ケーブルで接続します。
2. 「Drum Set」と「Tempo」を同時に押して、セッティングのメニューに入ります。
3. Footswitch → Footswitch Detectorの順番で選択し、画面に従って設定してください。

※1度設定すると設定が保存されます。次回からはFootswitch Detectorを選択するだけで、外付けフットスイッチが使用できます。



セッティング

用途に合わせて、セッティング画面（Settings）から BeatBuddy をカスタマイズすることができます。「Drum Set」と「Tempo」を同時に押して、セッティングのメニューに入ってください。

Footswitch : 使用するフットスイッチの種類と、各スイッチの役割を設定します。

Main Pedal : 本体フットスイッチと各種動作の設定を行います。

About BeatBuddy : ユニット情報が表示されます。

Restore Default Settings : 全ての設定が工場出荷時の状態にリセットされます。



メニュー画面での操作は、矢印ボタン又は Tempo ノブを使用して行います。

「Tempo」ノブを押すと、現在選択（ハイライト）されている項目を実行（決定）します。

「Drum Set」ノブを押すと1つ前の画面に戻ります。

Footswitch > Footswitch Detector :

接続された外部フットスイッチのタイプを識別します。初めて接続するフットスイッチを使用する時や、フットスイッチの動作が正常ではない時に実行してください。「スイッチが1回おきにしか反応しない。」「同時押ししか反応しない。」等の問題を解決したいときに試してみてください。

Footswitch > Footswitch Configuration :

外付けフットスイッチの設定をマニュアルで行います。Footswitch Detector を使用した場合は、こちらで設定をする必要はありません。

Footswitch > Footswitch Configuration > Footswitch Type :

外付けフットスイッチが「ラッチ」（1度押すとONになり、再び踏むとOFFになるタイプ）か「モーメンタリー」（押している間だけONになるタイプ）のいずれかを設定します。

Footswitch > Footswitch Configuration > Footswitch Order :

外付けフットスイッチの左右の設定を入れ替えます。

Footswitch > Footswitch Configuration > Footswitch Polarity :

モーメンタリーの外付けフットスイッチを使用している場合、スイッチを押した時の動作設定を行います。

- ・ Default Off : スwitchを押した時に、スイッチがONになります。
- ・ Default On : スwitchを押した時に、スイッチがOFFになります。

Footswitch Functions :

外付けフットスイッチのファンクション（動作）を設定します。

Footswitch Functions > 1st Switch Stopped :

再生していない時、左側のスイッチを押した時の動作を設定します。

Footswitch Functions > 1st Switch Playing :

曲の再生中、左側のスイッチを押した時の動作を設定します。

Footswitch Functions > 2nd Switch Stopped :

再生していない時、右側のスイッチを押した時の動作を設定します。

Footswitch Functions > 2nd Switch Playing :

曲の再生中、右側のスイッチを押した時の動作を設定します。

各スイッチの機能

No Action : 押しても何も起こりません。

Accent Hit : フットスイッチを押すと、現在のソングのパートに設定されたアクセントヒット（単音）が鳴るよう設定します。曲が流れていない時に押すと、ソングの1番最初のパートに設定されたアクセントヒット音が鳴ります。

Pause / Unpause : 曲を一時停止します。再度押すと再び演奏が始まります。

Tap Tempo : タップする速さに合わせて、ビートのテンポが変更されます。

Song Advance : フォルダー内の次の曲へ移行します。

Song Back : フォルダー内の1つ前の曲に移行します。

Ending Fill :

アウトロフィルと共に曲が終了します。曲のテンポが速く、本体フットスイッチを2度踏むのが困難な場合に便利な機能です。

Main Pedal > Mute Pause :

「enable（オン）」にすると、一時停止時にビートがミュートされます。

（バーは進行します）。

「disable（オフ）」にすると、一時停止時にビートは停止し、これを解くと小節の最初から再生が始まります。

※ BeatBuddy を外部の MIDI デバイスからコントロールしている場合には、同期が外れないよう「enable（オン）」にしてください。「MIDI Enable」オプションが選択され、BeatBuddy がスレイブの場合は、自動的に「enable（オン）」に切り替わります。

Main Pedal > Triple Tap Stop :

「enable（オン）」にすると、素早いスイッチの3回押しで再生が即時ストップします。即時ストップしたい場合、外付けスイッチで一時停止を一度押す手間が省けます。デフォルトでは、誤動作を防止するため「disable（オフ）」に設定されています。

Main Pedal > Main Pedal Unpause :

一時停止中に本体フットスイッチを1度短く踏んで曲を再開した時、「イントロ・フィル」か「次のフィル」どちらを鳴らすか選択できます。

Main Pedal > Main Pedal Unpause > Hold :

一時停止中に本体フットスイッチを長押しした時、「曲の再生が即時ストップする。」
「次のパートに移行する。」 いずれかが設定できます。

Main Pedal > Queue Fill Period :

フィルを挿入する時、小節が始まってからフィルを開始する（小節内で）までの長さを設定します。設定値が「75%」の場合、小節の頭から75%以内のタイミングでフットスイッチを踏むと、その小節内で即時フィルが始まります。75%を越えた後にフットスイッチを踏むと、次の小節の冒頭からフィルが始まります。

Main Pedal > MIDI Messages > Start > Intro/Main Beat :

Main Pedal > MIDI Messages > Start > Intro/Main Beat

MIDIで「スタート」のシンク信号を、「イントロ (Intro)」と「メインビート (Main Beat)」どちらのタイミングで送信するかを設定します。

イントロが1小節より短い場合、イントロ開始のタイミングで「スタート」信号を送信してしまうと、次の小節から他のMIDI機器とのタイミングがズれてしまいます。メインビート開始時に「スタート」信号を送るように設定すると、その現象を回避することができます。

Main Pedal > MIDI Messages > BeatBuddy > MIDI OUT / MIDI THRU :

MIDI OUT : BeatBuddyのMIDI情報を、MIDI OUT端子から出力するよう設定されます。デフォルトでは、こちらに設定されています。

MIDI THRU : MIDI INから受信したデータを、そのままMIDI OUTに出力するよう設定されます。MIDI機器をデジチェーン接続する場合に有効な設定です。

Main Pedal > Release Time :

同一ドラムパーツの、音と音のつながりを調整します。例えばハイハットをオープン→クローズの順番で鳴らすと、本物のドラムであれば、オープンのサウンドは自然な減衰でミュートまたはチョークします。しかしBeatBuddyはデジタルなため、クローズを鳴らした時の突発的なトランジェント信号により「スキップ」したようなサウンドに聞こえます。これを解決するためのコントロールが「Release Time (リリースタイム)」です。設定した秒数に従って、前のサウンド（この場合はオープン）がフェードアウトするため、スムーズでリアルなサウンドに聞こえます。

デフォルトの設定は100ms (1/10秒) です。プロが最も自然だと言う数字であると言う理由でこの数値に設定されていますが、リリースタイムを変動させてサウンドの変化を試す事ができます。

Main Pedal > Intro fill > Enable/Disable :

イントロのフィルを「Enable（鳴らす）」か「Disable（鳴らさない）」かを選択します。デフォルト設定は「Enable」です。

※ 「Disable」 に設定すると、全てのソングのイントロフィルが鳴りません。

Main Pedal > Start Beat > Press/ Release :

本体フットスイッチを踏んでソングを再生する際、「Press（ペダルを踏み込んだ時）」または「Release（踏み込んだ後に離す時）」どちらのタイミングでスタートするかを設定します。デフォルト設定は「Release」です。自分の踏みやすい設定に変更すると、スタート動作をより正確に行えます。

※ 「Press」 に設定すると、一時停止中に長押しを伴う動作が出来なくなります。

About BeatBuddy

ID : 本体の CPU ごとに付けられた個別 ID が表示されます。

Version : 現在のファームウェアのバージョンを表示します。

MIDIシンク（同期）

MIDI シンク機能を用いて BeatBuddy と他の MIDI 機器を同期すると、ルーパーやエフェクター、レコーダー等とシンクしたパワフルなパフォーマンスが可能です。例えばルーパー（Boss RC-300 など）と接続すると、ループをビートと完全に同期できます。また、MIDI シンクに対応したディレイと同期すると、ディレイ・タイムとビートとの同期も可能です。

BeatBuddy の MIDI シンクは IN / OUT（Slave / Master）どちらにも対応できます。つまり、BeatBuddy を Master（マスター）として、他の機器のテンポを設定できますし、BeatBuddy を Slave（他の MIDI 機器をマスター）にすると、外部から BeatBuddy のテンポを切り替える事も可能です。

MIDI 接続

- ・ BeatBuddy を Master にする場合：BeatBuddy の MIDI OUT から、他の機器の MIDI IN に接続します。
- ・ BeatBuddy を Slave にする場合：他の機器の MIDI OUT から、BeatBuddy の MIDI IN に接続します。

※ MIDI シンクは「テンポ（クロック）」「スタート」「ストップ」の機能に対応しています。

MIDI ケーブル

ボディサイズを抑える為に、BeatBuddy は PS/2 形状の MIDI ポートを採用しました。この端子から専用の Y 字ケーブル（別売）で、通常の 5 ピン MIDI 端子（IN / OUT）に変換します。

MIDI 同期中の一時停止

MIDI 同期中に一時停止した場合の動作設定が可能です。

Drum Set と Tempo を同時に押し、メニュー画面の「Mute Pause」で設定を切り替えます。

- ・ **Normal Pause**（ノーマル・ポーズ）：

BeatBuddy を Master として使用する場合に有効なモードです。

一時停止した時、BeatBuddy から他の機器に「全て停止する」の命令を送ります。

再生を開始すると、MIDI から再生のコマンドが送られます。その時、ビートは小節の頭から開始されます（同期を保つため）。

- ・ **Mute Pause**（ミュート・ポーズ）：

BeatBuddy を Slave として使用する場合に有効なモードです。

一時停止した時、他のデバイスへは何も命令が送られません。他の機器は継続して動作を続け、BeatBuddy もビートを刻み続けますが、サウンドのみミュートされた状態になります。一時停止を解くと、BeatBuddy のミュートが外れて音が出ます。

使用上のヒント

- 曲を一時停止する時や終了する時、アクセントでクラッシュ・シンバルを鳴らすと、ドラマーのプレイのようにダイナミックなエンディングを演出できます。
- ソング名やドラムセット名が長すぎて画面に収まりきらない場合は、「Drum Set」又は「Tempo」のノブを2度押すと、名前がスクロールします。
- 曲が停止している状態でフィルを1回だけ鳴らしたい場合は、フットスイッチを2回連続で押すと、アウト口に設定されているフィルが1回流れます。
- アクセントにリムショットやハンドクラップの音を設定しておき、小節の最初の音に合わせて鳴らすと、コミカルな雰囲気が出せます。
- 編集ソフト「BeatBuddy Manager」を用いて曲のリストを作成し、それらに名前が付けられます。曲毎にデフォルトとなるドラムの音色やテンポも予め設定できます。このように、ライブの前に全て準備できます。

さらにオプションのフットスイッチ（別売）を使うと、ソングのフォルダー間も足元の操作だけで完了できます。ライブ中にしゃがんで操作する必要はありません。

<http://myBeatBuddy.com/downloads> から、編集ソフトウェア「BeatBuddy Manager」がダウンロードできます。このソフトウェアを使用すると、ファームウェアのアップデート、BeatBuddy のデータ編集、ライブラリーやフォーラムからダウンロードしたデータの移行が行えます（SD カードへ）。また、MIDI ファイルを使用したソングや、WAV ファイルを使用したドラムセットも新たに作成することができます。「BeatBuddy Manager」で編集を行う場合は、BeatBuddy とコンピューターを USB ケーブルで接続するか、付属の SD カードをコンピューターの SD カードスロットに挿入して行います。

ファームウェアのアップデート：

「BeatBuddy Manager」のメニューの「Tools > Update Firmware」から行います。定期的に更新情報のチェックをお勧めします。（インターネット接続必須）

仕様

出カインピーダンス：～ 26 ohms

S/N 比：95 dB typical

D/A：24 bits, 44,1 kHz

周波数特性：10Hz to 20 kHz

入カインピーダンス：> 1Meg ohms

(最大入力レベル：3.5 dBu)

寸法：9cm(W) x 13cm(L) x 6.4cm(H)

テクニカルサポート（動作がおかしいと感じたら…）

BeatBuddy の動作がおかしくなったと感じた場合は、まず下記の対処法をお試してください。

1. 電源を一度抜き、数分待ってから再び電源を入れてください。
2. それでも解決しない場合は SD カードに問題が発生している可能性があります。
「BeatBuddy Manager」ソフトウェアから BeatBuddy プロジェクト（BeatBuddy コンテンツ）をリロードしてください。

※下記のページにも、トラブルシューティングの情報が公開されています。
一度ご覧ください。

FAQ (<http://mybeatbuddy.com/faq/>)

フォーラム (<http://myBeatBuddy.com/forum>) / 英語

上記で解決されない問題が発生した場合は、下記のサポートまでお問い合わせください。

日本語版 : support@allaccess.co.jp

英語版 : <http://myBeatBuddy.com/support>

製品保証

BeatBuddy には、購入後 1 年間のメーカー保証が適応されます。

正規輸入品の保証規定に関する詳細は、当社 Web をご参照ください。

<http://www.allaccess.co.jp/company/warranty.html>